

地区の概要

当地区は都心から北西へ約11kmに位置し、古くは手稲町として栄えた歴史ある地区ですが、建物の老朽化や工場跡の大規模未利用地等の問題を抱え、地域の中心にふさわしい土地の高度利用と市街地環境改善のための計画的なまちづくりが望まれていました。

平成元年に「土地利用基本構想」を策定、平成4年度の「整備計画策定調査報告」等を経て、再開発事業や優良建築物等整備事業、手稲駅舎の橋上化や南北駅前広場の拡張整備等が順次進められました。また、駅に整備された交流空間である「自由通路」を中心に、南北の各地区を有機的に結ぶ空中歩廊が整備されたことで、人に優しく都市景観への配慮もなされた地区の顔にふさわしいまちづくりが進められています。

①手稲本町2・4地区

第一種市街地再開発事業

(平成7～10年度 個人施行)

コンセプトは、快適生活都心“手稲の創造”
地下には消防水槽も



キテナビル、ラポール手稲駅前

②手稲本町1・4地区

優良建築物等整備事業

(平成10～15年度 市街地環境形成タイプ)

駅直結の複合ビルに生まれ変わったハートビル法認定の老舗ホテル



ティネステーションホテル、宮里ビル

③JR手稲駅北口地区

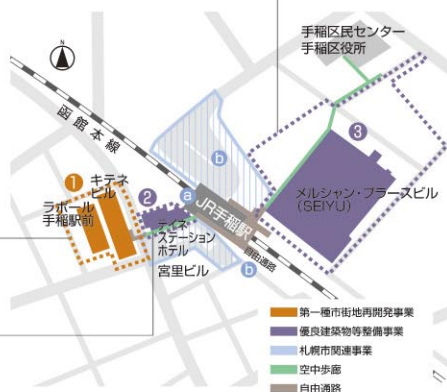
優良建築物等整備事業

(平成6～7年度 市街地環境形成タイプ)

駅前広場に隣接する北口の顔は空中歩廊で駅と区役所を結ぶ



メルシャン・プラスビル



その他の駅周辺整備

- ① 駅舎の橋上化(平成14年度完成)
- ② 人にやさしいまちづくり整備事業(平成9～15年度)
自由通路整備、駅前広場の整備(南口・北口)

自由通路等の整備に行ったワークショップは、当時の札幌市において大規模施設の整備では初の試みでした。通路には「あいくる」という愛称も付けられ、手稲の情報発信基地として地域の交流の場にもなっています。

地区の概要

当地区は都心から北へ約10kmに位置し、本市の中でも最も古くから開拓された地区の一つですが、農業用倉庫等の未利用地が多く、公共施設が未整備な状態であることから、駅前通・駅前広場の整備をはじめJR学園都市線の高架化などの整備が求められていました。

そこで、一体的な再開発を望む地元の機運の高まりに伴い、平成10年に再開発事業の都市計画決定を行いました。

当初は、区域内の建物をはじめ、道路・駅前広場・公園を一体の再開発事業として行うことを予定していましたが、事業化されないまま時間が経過していました。

このような状況の中、地区内の一部において、個人施行による保育園建設が、平成17年10月に厚生労働省の補助を受けて事業完了しており、また、平成19年2月には都市計画決定の変更を受け、本市初の再開発会社施行が平成19年3月に認可され、平成21年5月に工事が完了しました。

②JR篠路駅西第2地区

第一種市街地再開発事業

(平成18～21年度 再開発会社施行)

篠路駅周辺のまちづくりに新しい風を吹き込む新エリア



分譲住宅棟、借上り営住宅A棟、B棟

①JR篠路駅西第1地区

第一種市街地再開発事業

(平成16～17年度 個人施行)

生まれ変わるまちにふさわしい、次世代の子育て支援施設を整備



篠路高洋保育園



その他の駅周辺整備

再開発事業を含め、様々な事業により駅周辺の整備を行います。

- ① 都市計画道路篠路駅西通(駅前広場含む)の整備(平成20年度完成)
- ② 自転車歩行者専用道路及び駐輪場の整備(平成21年度完成)



事業前の篠路駅周辺